

リーディングDXスクール事業【実践事例】

奈良市立佐保小学校（奈良県）【指定校】

【取組内容】 自分に合った学び方の習得

【個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実】

本校では、児童生徒の活動を教員が一挙手一投足指示するのではなく、学びの目的や趣旨を共通理解したうえで、自分で考え、選択しながら自分なりの学び方を見つけていけるように取組を進めている。

例えば、自分でじっくりと考える・友達と相談しながらやってみる、といった誰とどこでやるのかということも意識しながら進めていけるように各学年の発達段階を考慮した声掛けをしていくことはもちろんのこと、自分でペース配分等を決定していける場面を作ることを意識している。

各専科担当に関しても、限られたが授業時数の中で、児童の視点にたち、どのように学びの場を設定すればよいかを意識することを大切に授業の準備に当たっている。



【児童と教員の様子】

児童の学びの場の設定を意識した授業づくりを行うことで、児童が主体となって学習を進めていく場面が多く盛られるようになっている。このことから、毎回の授業を楽しみにしている児童の様子も見られ、教員も児童を信頼したうえでの支援の仕方を考えることができるようになっている。